モノ作りを支える地味な道具「ヤスリ」に込められた先人のワザと想いを未来に繋ぐ

精密ヤスリの新しい市場を開拓するトップブランドを率いる女性社長

「魚地球印」（うおちきゅういん）の商標は、精密ヤスリのトップブランドで、ギター用ヤスリなどで圧倒的なシェアを占める。「紙ヤスリより滑らかな仕上がり」の評判を受けて、おしゃれな爪ヤスリが生まれた。

新製品の爪ヤスリ『しなやか』

衰退する国内「ヤスリ」製造業の中で

『広島鑢（やすり）製造所』が本社工場を置く広島県呉市の仁方（にがた）栈橋通りには「ヤスリ工業団地」がある。刃物の焼き入れに味噌を塗り付ける独自製法の〝仁方ヤスリ〟は、国内生産の95％を占める。だが全盛期の70年代に比べれば事業所数も従業員数も3分の1以下。長引いた不況と国内企業の海外進出で需要が減った上に価格競争で中国品に流されるなどの結果だ。熟練のワザを持った職人も高齢化で大量に引退した。斜陽化に歯止めが利かない。しかし、少数ながらサバイバルして気を吐く企業もある。それが『広島鑢製造所』だ。

ヤスリは古代から使われてきた工具であり現代の機械製造現場でも欠かせない。用途に応じて様々な大きさ、形状、目の粗さがある。需要も作り手も多いのが工業用の中目だが、『広島鑢製造所』は先代社長の頃から細目から油目に分類される精密ヤスリの分野に照準を絞ってきた。これを求めるのは、精密部品製造業、歯科技工士、彫金・宝石の工芸家、ギターなど楽器製造者及び使い手、ホビー好きなどであり、同社の登録商標「魚地球印」（うおちきゅういん）は9割以上のシェアを占める。それゆえ数年前から、模造品や商標盗用などの事件も起きるほどだ。

三代目社長が挑む市場開拓と人材育成

ギターとヤスリにどんな関係があるのだろう。たとえばギターの部品にフレットがある。ネックの指板に音階ごとに張られた細い棒状の金属だが、この調整具合が弾き手に影響する。高さや触り具合を微妙に調整するのに専用ヤスリが必要なのだ。同社では、新しいフレットを指板に打ち込むための溝まで付けて使い勝手を良くしている。そしてこのノウハウを活かして他の弦楽器用も供給している。

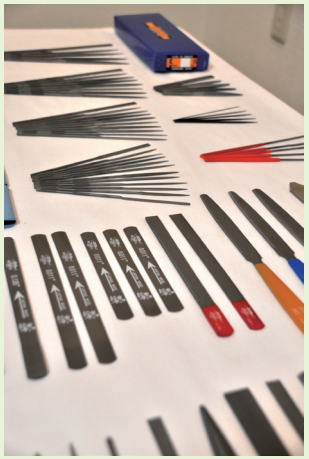
２００７年に父の跡を継いで三代目社長に就任した中洲紀子さんは、精密ヤスリの新しいニーズはまだ開拓できると考えている。「爪の手入れをする女性たちには『爪ヤスリ』は身近な存在でした。でもこれといった製品がない。当社のものが『紙ヤスリより滑らかな仕上がり』という評判を呼び、パッケージも一新して本格的に売り出したのが『しなやか』です」。これまでの武骨なイメージが女性向けになった。「ホビー用など、まだ充分に開拓されていない分野はあるはず」と言う。

中洲さんは、早くからベテラン職人のワザを若手が継承することの重要さを考え、社員平均年齢を20歳も引き下げるほど積極的な新人採用を行ってきた。彼らが未熟故に失敗するリスクも覚悟の上だった。「現物を見せて、お客様がいかに失望したかを教え、二度とやらぬよう工夫させます」と厳しい。また、「職人の世界は男の世界と思われていますが、女性でもモノ作りが好きな人、上手な人はたくさんいます。繊細さ、粘り強さ、センスからしても、女性をもっと戦力化しないともったいないです」とも語る。『広島鑢製造所』のサバイバル力は、たゆまぬ自己革新から生まれていることが分かる。

（ライター／土谷晴）

工場で活躍している女性の職人さん

代表取締役社長
中洲紀子氏
1959年、広島県出身。高校卒業後、銀行に就職。結婚して専業主婦となるが、広島鑢製造所の先代社長である父に招かれて入社し経理を担当する。2007年に同社の三代目社長に就任。若い人材の育成に力を入れている。



株式会社 広島鑢（やすり）製造所
0823-79-5671
FAX 0823-79-1895
〒 広島県呉市仁方栈橋通り1511-18 鑢工業団地内
E-mail uo_chikyu@hiroshimayasuri.com
http://www.hiroshimayasuri.co/